

高田で開いた懇談会でも地域事業見直しに厳しい意見

日本共産党市議団が事務事業の総ざらいなどテーマに市民懇談会



日本共産党上

越市議団は19日、福祉交流プラザで市民懇談会を開催しました。党議員団がテーマを決めて市民のみなさんと懇談会を開くのは六回目。これまでの懇談会では、保倉川放水問題、中心市街地活性化、スクールバス制

しています。

二つ目にあげた問題点は、合併時の約束事である地域事業についても対象にし、対等・平等の原則を壊そうとしている点です。合併協議の中では、14市町村の財政状況等を勘案した一定の計算式に基づいて合併後10年間、それぞれの区域（旧市町村）で使うことのできる地域事業費を定めました。また、どういう事業をやるかについてもそれぞれの区域で自主的に検討できる仕組みにしました。ところが、今回の総ざらいでは、こうした約束事を軽視し、事実上反故（ほご）にしようとしているのです。

村山市長はこれまでの議会答弁で、事務事業の総ざらいと地域事業費制度の見直しは別問題だとし、これから地域事業費制度の見直しを始めるとのべてきました。しかし、すでに総ざらいの中で地域事業の評価を行政側だけで行い、54億円からの削減を達成するべく動いている。新幹線新駅関連の整備費などをねん出するために合併時の約束事をチャラにするようなことがあってはなりません。

懇談会では、私の方から事務事業の総ざらい（総点検）についてのこれまでの経過と問題点について報告しました。私が問題点としてあげたことの一つは、事務事業の評価は市民参加のなかで行うべきなのに、行政側だけで評価を行い、その結果を市民に「理解してもらおう」としている姿勢です。これでは行政主導といわれても仕方がないでしょう。市の自治基本条例では、「行政評価について、市民が参加することができる評価の手法及び第三者による評価の手法をとり入れるよう努めなければならない」（第25条2項）と

懇談の中では、「事務事業の総ざらいをすることになった背景には地方交付税の削減など国の財政運営もあるのではないか。これとの関係をどのようにとらえているか」「今回の市のやり方で上越市の地域自治が試される。地域自治、地域協議会の制度があつてよかつたと思う」「木浦市政ではまがりなりにも地域事業を守ってきた。地域事業費制度の見直しは、13区で使うべきお金を新幹線駅関連整備に注ぎこもうとするものだ」「村山市政になって、大型公共事業抑制基調をひっくり返し、大型公共事

シリーズ 上越市内の橋

第58回 岩手橋



「岩手橋」と書いて「いわでばし」と読みます。柿崎区を流れる黒川にかかった橋。柿崎区岩手と米山寺をつなぎます。

江戸時代の著名な学者、小田穀山（少年時代は佐藤柳助）の生家（佐藤家）のすぐそばにあります。生家の長屋門は庄屋だった当時のまま残っています。幼少の頃、柳助もこの橋の付近で遊んでいたことでしょう。橋長は約19メートル。竣工は現在調査中。

業推進に切り替わってきたのではないか」「シニアパスポートの廃止は介護予防など行政が負っている責務から手を引くことになる」などの発言が相次ぎました。

今回の懇談会で出されたこれらの意見については議員団会議でさらに検討し、今後の議会活動に生かしていきたいと思えます。



今年も市内各地で「さいの神」が行われました。写真は吉川区代石町内会が16日に取り組んだ「さいの神」の様子です。強風ではありましたが、火はよく燃えました。モチなどを焼いて食べました。今年は豊作でしょう。

「こんだ風邪ひいたら、また入院だよ」と言われていた柏崎の義父が入院しました。三年ほど前に間質性肺炎で入院し、退院後は自宅で療養していたのですが、とうとう恐れた事態がやってきてしまいました。肺の機能が低下しているところに肺炎を起こしたようなのです。

義父のところへはこの二日、新年の挨拶に行ってきました。一二月下旬に会った時と比べると、明らかに弱弱しくなっていました。楽しみにしていた食事では、副食などをかなり残すようになりました。新聞はまったく読まなくなったそうです。テレビも見ません。イスに座っていてもすぐに眠ってしまいます。年を越しただけに、こんなにも弱るものかとその時、思いました。でも、こちらから挨拶した時には、うれしそうに手を上げていましたし、妻とはいつものように指相撲をしていたので、まだ大丈夫だと安心していました。まさか再入院という事態が五日後にやってくるとは夢にも思いませんでした。

義父が入院した病院は前回入院したところと同じでした。四人部屋ではありませんが、ベッドの周りには点滴の用具や自呼吸を補助する機器があります。妻と二人で見舞った時、義父は左目を大きく開け合図を送ってくれました。多分、「わざわざ来てくれたのか」と言っていたのだと思います。妻が義父の頭に手をあてると、頭をぐるりと動かししました。まだ力がありました。

妻の姉夫婦の話によると、目を閉じたまま状態で悪い時もあるそうなのですが、長女と一緒に見舞った時も義父は目を開けてくれました。この時も、「わかるかね」という問いかけにかすかに反応してくれました。でも長女についてはわからなかったようです。

義父の再入院で義母はさぞかしがっかりしたことだろうと思ひ、妻の実家を訪ねてみました。義母は意外と元気でした。これまで三年余りにわたって苦労してきた介護を専門家に任せることができ、ある意味では楽々したのかも知れません。腰が曲がった状態ではあるものの、杖をつきながら、部屋の中を動き回っていました。顔色も以前よりも良くなったように思います。ホッとしました。

長女とともに義父を見舞った日も、病院を出てから妻の実家へ行きました。長女が久しぶりに訪ねたので義母は大喜びでした。お菓子やナシなどを次々と出し、食べてくれとすすめます。先日、長女は東京に出かけましたが、その様子を妻から聞いていたのです。義母は、「浅草へ行つて来たんだって？」と声をかけ、「私も浅草や有楽町が好きだった。私に似たんだわ」とやっています。

義母と長女の会話を聴いていて思ひ出したのは、父が入院した後の母の様子です。ひよつとすればすぐにダメになるかも知れないと医師に言われていたなかで、何とか持ちこたえてくれて安心したのかも知れませんが、母は、父が家にいた時よりも元気に畑仕事に精を出すようになったのです。母も義母も同じだと思ひました。

義父の病状は一進一退です。私が訪ねた時は良い状態の時が多いのですが、目も開けられなく、ぐったりしている時もあるそうです。持病の間質性肺炎は、肺の機能が徐々に落ちていくと聞いています。前回の入院からすでに三年も経過していますので、通常の肺炎に克つてくれるかどうか心配です。

※義父は二〇日、他界しました。お世話になったみなさんに心から感謝します。

臨時議会で40億円の大型補正

24日に開催される臨時議会には一般会計補正予算など補正予算8件と上越人材ハイスクール条例の一部改正の合計9件の議案が提案されます。

このうち補正予算は一般会計と特別会計を合わせると40億円を超えます。補正の中身は追加経済対策が中心です。保育所のエアコンなど各種修繕工事、学校耐震化などの地域活性化で17億6345万円、市道改修、公共下水道幹線・枝線整備事業などの社会資本整備で19億167万円、子育て、医療等の強化（子宮頸がんなどワクチン接種緊急促進事業）で2690万円、小中学校大規模改造事業など市独自の事業で3億2613万円となっています。エアコン修繕や子宮頸がん予防ワクチンなど、これまで市民から求められていたものがいくつも盛り込まれました。

注目の学校耐震化に関しては、柿崎中学校の体育館耐震補強工事に5137万円、大島中学校校舎耐震補強工事に6475万円計上されました。大島中学校については校舎の大規模改造でも3647万円計上されています。

昨年故障した長峰温泉の源泉のくみ上げポンプの予備ポンプ購入費も今回の補正に含まれています。予算額は378万円です。

中山間地域基本条例素案の検討続く

中山間地域振興基本条例素案を発表してから、議会

全員協議会の場で議員から注文がでました。また、行政などからも意見や注文が出ています。市議会の中山間地対策特別委員会では作業部会を中心にこれらの検討作業を進めています。

これまで出された意見や注文は「前文に水源保護についての記述を」「中山間地域の振興にかかわる施策についての年次報告は実施状況についても書いた方がいい」「対象区域の基準を明確にしてもらいたい」などかなりの件数になりました。これらについてはすべて中山間地対策特別委員会の作業部会で検討し、その後、委員会で議論しています。19日の特別委員会では、作業部会がだした検討結果のほとんどを了承しましたが、なかには委員会での議論で修正されたものもありました。条例の策定作業というのはたいへんです。でも、議論によってより良いものになっていくのがわかるのでとてもやりがいがあります。

市議会の中山間地対策特別委員会では来月半ばに市民のみなさんのご意見をお聞きする会を吉川コミュニティプラザなど8会場で行い、パブリックコメントにも取り組みます。会場、日時は後日お知らせします。



ロウバイ。柿崎区にて